

受験番号

2025年度入試

神戸国際中学校 C選考

国語

(2025年1月21日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

□ ① 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（本文に一部表記を改めたところがあります。）

① 僕が研究している哲学なる領域の勉強することにはどんな意味があるのか。それについてはいろいろなことを言えるのですが、一つ、最近よく思う点をあげてみたいと思います。哲学というものを勉強すると、世の中に溢（あふ）れてゐる※紋切り型の考え方から距離を取れる――僕はそんな風に考えています。

世の中には②ある問題、論点についてのパターン化された答えが溢れかえっています。それらはいたいが、賛成ならこう、反対ならこうという形を取っています。賛成と反対でパターンが決まっているわけですから、もうそれ以上話が進みません。どちらかがどちらかを何らかの仕方で圧倒して否定するしかその問題への解決はなくなる。今だと「※テンプレ」なんて言葉もありますが、ある事柄について意見を形成しようとする、まず賛成か反対かを決めなければいけなくて、そして賛成にも反対にもテンプレが用意されているから、そのテンプレのどちらかに身を置くことになってしまう。

でもそこで問題になっていることについてよく調べて考えてみると、テンプレが見落としている論点が見えてくることがあります。そしてその論点に注目することによって、テンプレ上の対立がaムコウ化されることがよくあります。あるいは、テンプレに留（とど）まっていたならば考えることのできなかった問題が見えてくる。

③ ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲

練や修行を、哲学の勉強を通じて行って欲しいと思っています。

もちろん、僕ら哲学教育に携^{たずさ}わる人間たちも、そのことを⑤肝に銘^{めい}じておく必要があると思っています。

近くにある課題と遠くにある関心事は研究においても大切だと思います。研究というのはdイガイと※同調圧力が強いんです。「みんながやっているから」とか「いまはこういうやり方をしないとウケないから」とか、そういう圧力がどうしてもかかる。その中で、そもそも自分がやるべきだと思っていたことから逸^それていってしまうことがある。(D) 先ほど述べた、⑥すぐ遠くにある関心事というのは、研究においても大切だと思います。それを大切にできていれば、研究においても必要以上にブレないですむ。

すぐ近くにある課題というのは、※文献^{ぶんげん}を読むとか、※投稿論文^{とうこうろん文}を締切までに書くとか、そういうことです。それには全力で取り組まないといけない。でも、その中で、ものすごく遠くにある自分にとって大切なことを忘れてしまったら、どうしても同調圧力に負けていくことになってしまいます。もちろん、軽く今のトレンドに合わせたフリをするというやり方もありうるし、それはたまには必要だと思いますが、自分を見失わないためには、ものすごく遠くにあつて、ボンヤリしている関心事を大切にすることが必要です。

ものすごく遠くにあるボンヤリした関心事とものすごく近くにある課題を大切にするその間のことはなかなか思うようにはならないとか分かっておく。かなり人生的な話ですけども、これが今日、僕が若い人たちにお伝えしたいことの一つです。

(國分 功一郎 『目的への抵抗』)

※紋切り型：物事のやり方が一定の型にはまっていて、新しさに欠けること。

※テンプレ：あらかじめ決まった形式で作成された型。ひな形。

※概念：言葉や対象になるものの意味内容のこと。

※同調圧力：少数の意見に対して、多数の意見に合わせるように黙つたまま強制すること。

※文献：昔の制度や物などについて知るための参考資料となる文書。

※投稿論文：新聞雑誌などに載せてもらうことを願って送る論文。

問1 || a d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問2 (A) (D) に入る適当な語を次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ あるいは ウ なぜならば
エ だから オ さらに

問3 | ①「僕が研究している哲学なる領域の勉強をすることにはどんな意味があるのか」とありますが、「僕」は「哲学なる領域の勉強をする」ことに、どのような「意味がある」と考えていますか。

その内容にあたる部分を四十字以内で抜き出し、その最初と最後の五字を答えなさい。

問4 ―②「ある問題、論点についてのパターン化された答え」と同じ意味で使われている言葉を本文から四字で抜き出しなさい。

問5 ―③「そういう」とありますが、どういうことを指しているのですか。「形成」「問題」という言葉を必ず一回は使用して、「～ということ」につながるように、五十文字以内で答えなさい。

問6 ―④「これこそ哲学を勉強する上で非常に大切なことだと思っています」とありますが、筆者は、「非常に大切なこと」を何だと言っているのですか。四十五文字以内で答えなさい。

問7 ―⑤「肝に銘じて」の意味として正しいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 心に深く刻み込んで イ 心に望みを秘めて
ウ 心に強い痛みを抱えて エ 心に大きく描いて

問8 ―⑥「すぐく遠くにある関心事というのは、研究においても大切だと思います」とありますが、なぜ「すぐく遠くにある関心事」が「大切」のですか。その理由を、十字以内で本文から抜き出

しなさい。

問9 本文の内容として適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 研究とは、他の人からの期待や圧力がかかることで、自分自身が本来やるべきことを見つけ出すことが可能となる。

イ 本をしつかりと読み込んだり、提出する締切をきちんと守ることが研究者の姿勢として大事なことであり、成長を生み出す。

ウ 研究者自身が早くやらなければならない課題だと自覚した研究ほど、取り組む順番に研究者のこだわりがある。

エ 哲学を勉強することは、ボンヤリとした遠くの課題を考察し、他者から解答を生み出していくことである。

オ 歴史に名を残す哲学者となり得た人たちは、自分自身で問いを立てて、自らの考えで答えをまとめ上げてきた。

□ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（本文に一部表記を改めたところがあります。）

小学一年生の城山修（オサム）は、東京から栃木県の町に、父、母、小学六年生の兄の勉と引っ越してきた。ある日、修は、野球のユニフォームが欲しい、と母にお願いをする。

翌朝、母はいつになく上機嫌で朝食の用意をしていた。徹夜仕事をした母の目は腫れぼったく赤かった。

「オサム、約束のユニフォームだよ」

母はにこやかに笑いながら、手にした黒い布地の物を拵げた。修は目を剥いた。母の手には真つ黒な色の野球のユニフォームが吊されていた。①修は目を何度もこすった。たしかに（A）にまで見たユニフォームだった。ただし白地の布で作ったものではなく、黒地に白の線が入ったユニフォームだった。

「気に入ったかい？」

「う、うん」修はうなずいた。欲しかったのは白地のユニフォームだが、ユニフォームに変わりはない。

「爺ちゃんの※紋付きを仕立て直して作ったんだよ。母さんの裁縫の腕もまんざらじゃないね」

「いいな、オサム」後から起きて来た勉がにやにや笑いながらいった。「母さんが作ってくれたユニフォームだからな。世界で一つしかないぞ。それを着ると（B）オサムも野球が上手くなるよ」

「さ、着て、着て」

修は※ランニングに。パンツ姿になり、早速、黒のユニフォームを着こんだ。■にびったりしたユニフォームだった。胸には白い布地を切り抜いて作った※Gのマークが縫いつけてあった。

「うん、似合う、似合う、修坊」

勉は笑いながらいった。母も可笑しそうに目を細めながらうなずい

た。修は母の鏡台の前に立った。鏡に映る自分の姿は、たしかに似合っていた。だんだん自分でも気に入りはじめていた。

「これは何だ？」

修はユニフォームの背中に付いた白い紋を見付けた。母は笑いをかみ殺した。

「だからいったでしょ。紋付きをつぶして作ったから、どうしても背中に紋がついているのよ」

「いいじゃないか、修坊。背番号の代わりだと思えば」勉はにやにやしながら修の肩を叩いた。

「※ドンマイ、ドンマイ」

「うん、ドンマイ、ドンマイ」

母は目に涙を溜めて笑っていた。修は学校に黒のユニフォームを着て行った時の、みんなが驚く顔を想像していた。

黒のユニフォームを着た修は、教室に入るとたちまちみんなの人気者になった。男の子たちは、修の周りに集まり、さまざま※批評や感想を加えたが、修は気にならなかった。いち早く修の姿を見た広瀬先生が、母の作ったユニフォームと知って誉めてくれたからだった。女の子たちが自分のことを囁き合っているのも快かった。廊下ですれ違う上級生や先生たちも、みんな修を振り返り、何かと声をかける。

②修は得意満面だった。

午後の体操の時間は学級対抗のソフトボール試合だった。修はその日も正選手の人数が足りなかったので、レフトについた。修はユニフォームを着た分、身が引きしまり、上手になった気がしたが、結果は

散々だった。

その試合でレフトに飛んで来たフライは五球もあったが、いずれも修はボールを捕れなかった。バッターに立っても打てず、三振とピッチャーゴロのノーヒットに終わった。

バッターボックスに立つたびに相手側から「黒バッタ」「黒バッタ」の※野次が飛び、上がってしまったせいもある。広瀬先生がにこやかに励ましてくれたことだけが修には唯一の救いだった。

「ただいまッ」

ランドセルを※上がり 櫃に放り投げると、③洗濯物を畳んでいた母が心配顔で修を迎えた。

「オサム、どうだった？ユニフォーム」

「みんな、びっくりしてた。すごいって」

「よかった。馬鹿にされたんじゃないかと思って心配してたわ」

母は④眉根を開いた。

「みんなにからかわれたら、母さんが出てってやるからね」

「そんなことなかったよ」

修は「黒バッタ」とからかわれたことはいまいと思った。折角、※夜なべして母が作ってくれたユニフォームだ。

「みんな、いってたよ。格好いいって。母ちゃんにいつて、おれみたいなユニフォーム作ってもらうべって」

「そうかい、そうかい。友だちはみんなそういつてたかい」

母は顔をくしゃくしゃにし、目を細めた。⑤オサムは嘘をつくのが後ろめたかったが、喜んでくれればいいやと思うのだった。

「おれ、テッオのところへ、遊びに行つてくら」

「ああ、行つといで。遅くならないうちに帰んだよ」

母は（C）しながら、修の黒いユニフォーム姿に見入っていた。嘘をついて※居心地が悪かった。修は※一目散に外に走り出た。

（森 詠 『オサムの朝』）

※紋付き…それぞれの家のしるしとして定められている模様が入った儀式

など着る和服。

※ランニングパンツ…男性の上半身と下半身の下着。

※Gのマーク…プロ野球団「読売巨人軍」を象徴するマーク。

※ドンマイ…失敗した仲間をばます言葉。「気にするな」「心配するな」。

※批評…物ごとのすぐれていることやおとっていることを示して評価を述べること。

※野次…他の人の言葉や動きを大声でからかったり非難したりすること。

※上がり櫃…家の扉から中に入った土の部分から座敷などに上がるところのゆかに渡した横木。

※夜なべ…昼間に続いて、夜、仕事をする事。

※居心地…ある場所や地位にいて感じる気持ち。

※一目散…あわてふためくこと。わきめもふらず走る様子。

問1 （A）に入る漢字一字を答えなさい。

問2 (B)・(C)に入る語を次のア～エの語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

(B)

ア じつと イ さつと ウ きつと エ ずつと

(C)

ア わくわく イ どきどき ウ いらいら エ にこにこ

問3 —①「修は目を何度もこすった」とありますが、このときの「修」はどのような気持ちですか。その説明として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 期待を裏切られてがっかりした気持ち。

イ 現実のことなのかどうか疑わしい気持ち。

ウ どうして良いのかわからず不安な気持ち。

エ 誰の言うことも信じられない気持ち。

問4 —②「修は得意満面だった」とありますが、(i)「得意満面」

の意味として適当なものを後の語群のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(ii)また、なぜ、「得意満面」になったのですか。

その理由を三つ挙げなさい。

(i)

ア ゆかいな気持ちが全身にあふれていること。

イ ほろしい気持ちが顔中に出ていること。

ウ 腹立たしい気持ちが表情でわかること。

エ 面白い気持ちをおさえられないでいること。

問5 —③「洗濯物を畳んでいた母が心配顔で修を迎えた」とありますが、「母」はどのようなことを「心配」していたのですか。三十字以内で答えなさい。

問6 —④「眉根を開いた」とありますが、「眉根」とは、「眉毛の根もと」のことであり、「眉根を開く」とは、「眉と眉の間がせまくなっていたのが、開く」ということです。これは、「母」がどのような気持ちになったということですか。十字以内で答えなさい。

問7 —⑤「オサムは嘘をつくのが後ろめたかったが、喜んでくれればいいやと思うのだった」とありますが、「オサム」はどのような「嘘をついた」のですか。「と嘘をついた」に続くように、五十五字以内で答えなさい。

問8 本文から読み取れる「修」の人物像として、適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他の人のことを思いやることができ、思い通りとはいかなくても希望

をかなえてくれた母親への純粋な感謝の気持ちも持つ優しさがある。

イ 兄や母親からの愛情を素直に受け取ることができず、その愛情を忘れることはないにもかかわらず反抗的な態度をとってしまう。

ウ 家族全員でかわいがったために甘やかされて育ってしまい、明るく元気でありながらもわがままで自己中心的になっている。

エ 常に母親の機嫌をうかがい、母親の行動を想像して動いているので、自分自身の意見を言えないもどかしさを心の中に抱えている。

三

次の①～⑤の意味に当てはまる慣用句を次のア～クからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① だいじょうぶだと保証すること。

② ほんのわずかであること。

③ むだな話で時間をつぶしてなまけること。

④ 面積が非常にせまいこと。

⑤ 任務や責任が能力以上であること。

ア 尾ひれをつける イ さじを投げる ウ 板につく

エ 荷が重い オ すずめの涙 カ 油を売る

キ 折り紙をつける ク 猫のひたい

四

次の①～④の―部の主語を例に合わせてそれぞれ抜き出しなさい。

(例) 青い鳥が山の中で鳴いている。

↓ 鳥が

① 遠くのサーカスのテントの立ち並ぶあたりで、青や赤の電気がずいぶんと明るく輝いていた。

② いきなり森から出てきた女の子は畑を耕していた髪の毛がくしゃくしゃになった老人に話しかけた。

③ そこらは、もみとかわらから立ち上った細かいちりで、変にぼうつと黄色になった。

④ 明るい午後の日が、玄関をおおっている桜の葉の陰からもれてきて、私の顔の上に降り注いでいた。

